

高岡市男女平等推進プラン情報誌

9 号 2001年5月

ありーて

もくじ

青年おおいに語る

若者たちの考える「私らしい働き方」

「ドメスティック・バイオレンス」

セピア色の写真から

高岡って甘いの？ しょっぱいの？

こんにちは 女性行政室です

「ありーて」は、自分の力で問題解決していく
イギリスの童話「アリーテ姫の冒険」の主人公
の名前です。
「私の未来は私が創る」とアリーテはいます。

青年おおいじに語る

「ありて」八号の特集を通して、高岡市民の意識・生活実態の一端をうかがうことができました。

では、高岡市の明日を担う若い人達は 私らしい働き方とドメスティック・バイオレンスについてどのように考えているのでしょうか。

若い人達の意見を聞きたいと思い青年議会の方たちを訪ねました。「ありて」を初めて見ました。」と
言う人がほとんどでしたので、早速『ありて』を読んでもらい、率直に語り合っていました。

若者たちの考える

私らしい働き方

「見てみて、
あそこのダンナさん、
洗濯したり、買い物したりしてるよ!!」
なんて世間体が悪いと言われるかな？

「結婚式・披露宴は盛大だね。
大きな蒲鉾つけたりして、
親の希望で費用が掛りすぎるよ」

「経済的なこと考えると、
妻には働いてもらいたいけど、
子育てを考えると、家庭にいてほしいし、
仕事と家庭の両立なんて難しいよ」

「これじゃ当分
結婚なんてできないよ」



「せめて子供が小学校に行くまでは、
面倒を見てあげたいけど、
その後の再就職が不安だよね」

「育児休暇は、やはり収入の少ない
女性が取った方がいいと思うよ」

「男としては仕事もあるし、
子育てに関しては
補佐的なことしかできないよ」

もっとも身近な問題である結婚については、意外と古風な意見が目立ちます。そこには自由を謳歌しているようで、実は慣習にとらわれている若者達の姿が見え隠れしています。経済面、子育て、仕事と家庭の両立等様々な不安材料から、結婚なんてできないと嘆く若者達。また一方では、自分の価値基準に自信を持つ若者も大勢います。

昨年行われた高岡市の意識調査でも、結婚するのが当たり前と答えた60代の女性は64.4%、男性は75.9%と高いのに対し、20代の女性は13.7%、男性は33.3%と低く、結婚観について年代間に大きなズレがあります。

「議員さんも、今の日本の社会構造がこれでいいのが考えてみてください!!」

「女性は40年間厚生年金をかけられる職場で働いてほしい。老後の単位が夫婦ではなく個人になると思うので」

「私は仕事＝社会進出とは思わない。家庭に閉じこもること無く子育てしながらボランティアしたり、子供と参加できる範囲で、世間と関わることによって自分の行動範囲も広がるし、親子とも視野が広がる。これも社会進出のひとつだと思う」

「結婚後も、今の仕事を共働きで続けて行きたい。でも子育てのこと考えるとどうしたらいいかわからない」

「簡単に延長保育ができるといいのにね」
「保育料だって、やたらと高いらしいよ」

「結局は、親に頼るしかないのかな。親と別居して、二人で子育てなんてできそうにもないよ」



「女にしても、フルタイムで働くより子育てしながら、パートで働いて扶養家族でいた方が得じゃないの」

○ いまだに社会では、「男は仕事、女は家事・育児」「女性の収入は男性よりも低いのが常識」といった意識も残っているようです。まずは、固定観念を取り払い、女性を誰かの妻・誰かのお母さんではなく、個人として認めるという当たり前のことから、認識する必要がありそうです。

○ 社会の通念や固定的な価値観、長引く不況と少子高齢化社会の中で、自分の対応に苦慮している若者達の意見は様々ですが、互いに相手の立場を理解し、尊敬し、認め合うことが大切だと彼らは言います。

○ 若者達が社会構造への問題や、自分たちの疑問を問題提起していくことによって、少しずつでも改善し、理想に近づく原動力となっていくでしょう。

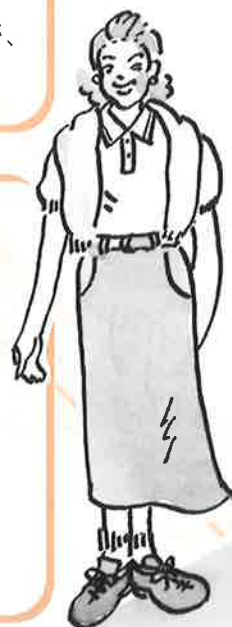
仕事と家庭を両立させるには、子育ての期間をどう過ごしていくかが課題と考えている若者達。先輩達の生き方を通して見た、育児休業制度や保育サービス制度等への理解不足による不安感が大きく、子供を産み、育てる自信が持てなくなっているようです。子育て支援の様々な制度が整備され、事業等がすすめられていても、事業所（企業等）も市民もそれを利用し切っていない現実がうかがえます。今ある制度を大いに利用し、新たなニーズの把握、制度を検証し、より良い支援制度にしたいものです。

若者たちの生きる

ドメスティックバイオレンス

夫や恋人、パートナーなどの親しい男性から女性への暴力

若者の間では、DVという言葉は内容も含めて身近には感じないようで、一般論としての意見が目立ちます。しかし、彼らと意見を交し合う中から少しずつでも社会の問題として“女性への暴力”を解決しようとする方向が見えてきます。



- ★おじさん達は、DVなんて言葉知らないんじゃないかな。
- ★会社では上司と部下の板挟み、家庭では妻からの愚痴を聞かされ、そのストレスの先に暴力があるんじゃないの？
- ★暴力で解決してはいけない。それがDVなんだって、ガツンと教えてあげなくちゃ。
- ★日本全体が、男尊女卑の風習を引きずっているよ。
- ★自分の家庭を見ても、父の発言が家全体の考えになっていくっていう現実がある。
- ★その親を見て、それが当たり前だと思って子供は育っていくわけね。
- ★男性は妻や子供を自分の所有物だと思っているみたいだし。

- ★身近な人からの暴力は、女性だけでなく子供達にも向けられているよね。
- ★社会全体の問題にしていけないと、変わらない気がする。
- ★受け止める側は暴力と感じているのに、本人に自覚が無いことが多いんじゃないの？

夫婦や恋人は、本来、対等な関係で愛し合い、相手の個を尊重しあう関係のはずですが、DVは暴力によってパートナーを所有し支配する権力を持ち、パートナーに対して何をしてでも許されるという重大な考え違いをして、生命・心身に深刻な危害を加える犯罪行為を繰り返しているのです。

どんな状況であっても、暴力は人権の侵害行為であることを、社会全体で認知していくことが大切です。

人の心と体を大きく生きていく力を奪う。人は皆安心して生きていく権利がある。誰もこの権利を奪うことはできないのです。

では、加害者（バタラー）の意識を変えるためのバタラーカウンセリングプログラムが実施されると受講が強制されます。

はまだ系統だったプログラムは無く、専門カウンセラーもほとんどいない状態ですが、増えており、自助グループも出来てきています。

受け続けると無力感におそわれ、希望が持てなくなり立ちあがる力をなくしてしまいます。勇気を出して誰か信頼できるひとに話すことが大切です。市内にも女性達のための、いくつかのサポートグループを作っています。

への暴力については、昨年秋、児童への虐待防止法が施行され、市内でも防止組織され、地域の問題として取り組みが始まりました。富山CAP、CAP（キカおか、CAP 砺波など子どもが暴力から自分を守るための学習ワークショップ）するグループもあります。

は「ありて4号」（1998年9月発行）各種問題別相談便覧～相談先もつとくわご覧ください。

高岡市のドメスティック・バイオレンスの実態について児童福祉課に聞いてみました。

児童福祉課は女性相談員（母子担当主幹兼務）を置いて、色々な悩みを抱えている女性の相談に応じ、それぞれの自立に向けて支援をおこなっています。相談内容は、離婚問題・家庭不和・男女問題・夫（内縁関係を含む）の暴力等です。

【女性相談延件数】

平成10年度	100件
	その内夫の暴力は 10件
平成11年度	97件
	その内夫の暴力は 2件
平成12年度 2月28日現在	93件
	その内夫の暴力は 22件

相談内容に応じて、緊急避難が必要な場合は、富山県女性相談センターの一時保護を利用しています。（年間1～2件有）

※夫の暴力が、今年度は急増しています。
※高岡市では、富山県女性相談センターと相談しながらDVの問題に対応しています。一時保護の依頼後も被害女性の安全を確保するため、シェルターの場所を秘密にし、被害女性に関する情報が外部に漏れないように配慮するとともに、一時保護退出後も安全で安心できる生活への見通しが立てられるよう富山女性相談センターと連携しながら継続的な支援をおこなっています。

高岡市役所児童福祉課 （女性相談）

TEL 0766-20-1381

- ★どこに、どんなふうにご相談すればいいのかな。
- ★匿名で相談できる窓口があるといいのよね。
- ★カウンセリングを受けたくても、周囲の目が気になってしまふよね。
- ★各地域に気軽に話せる場があれば、気が晴れるかも…。
- ★井戸端会議を復活させたらどうですか？
- ★結局は自分自身で解決していく勇気が必要なのよね。
- ★そのためには、その勇気を応援するシステムがたくさんあって自由に選択できるのが理想なんじゃないかな。

★加害者側が変わらなければ、結局は同じ事の繰り返しだよ。

高岡市で調査した配偶者やパートナーからの暴力行為等の相談の状況では、知人・友人に相談した人30.6%、親族25.7%、医師2.0%、市役所の窓口など1.7%、警察1.4%、弁護士会など1.1%、どこにも相談しなかった人が53.7%となっていました。日本では家庭内の問題や精神面に関する分野は、世間体が良くないと言った理由から、諸外国よりも立ち遅れている傾向にあると言われています。

身体の病気を治すことと同じレベルで精神面のケアが出来る社会的環境を整備していく必要があります。市役所の窓口でH12年度で、夫の暴力で22件の相談があり、10年度・11年度よりグンと増えてきています。これは解決に向けて勇気を出した女性達が動き始めたのかもしれません。



暴力は、く傷つけ、うもので自信を持ち、奪うこと

アメリカあり、速日本に徐々に増

暴力を強、しまいが話し、子ども協議会が、ヤップ)た、ブを提供、詳しく、しく～を

セピア色の写真から

山本志家さん

富山に来て…



戦争が終り、教員が足りない時代に義母の勧めもあつて、新制福岡中学校で再び教鞭をとることになります。中学では教科担任という事で、国語と音楽の先生に。その頃は教科書がなかったりして大変な時代でした。当時は生徒達も個性的だったよ

うで、志家さんも色々工夫して指導に当られたようです。富山の印象は、とても豊かな県ですね。美味しいお米。それにカ

ルシユウムの豊富な小魚を欠かさない家庭が多い。でも、男は

大正五年十月生れ、八十四歳の山本志家さん。今も現役で民間のピアノ教室で小学生から高校生までの子供達にピアノのレッスンをしておられます。レッスンの中で子供達は、コミュニケーションの大切さを学んでいます。

昭和十年、茨城県女子師範学校本科を卒業。茨城で数年の教員生活を経て、夫が金沢の部隊に入隊するという事もあって夫の実家に疎開し、富山での生活が始まりました。

困り裏のそば、女は炊き口のそばで、やたら男の威張っている所だなどと思ったそうです。でも最初に家族から「習慣違ふから、何処に座つてもいいよ。何やってもいいよ。」と言われて、富山の人の温かさを感じたそうです。



福岡中学校から高岡の博労小学校へ赴任。小学校では低学年を担当した。「何で低学年かと泣けた。手の間から米粒がこぼれるように、子供達に上手に接することが出来なかった。子供達が手のひらに収まらなかつた時には、校長先生に色々指導していただいた。」子供達が騒がしかったらピアノを弾き、静かになつたら算数の授業をした。その頃、音楽と給食の主任をする事になり、それがきっかけで後々ボランティアの食事作りに役に立ったそうです。

お弁当とピアノ…

三十年余の教員生活を辞めて二年後民生委員に。博労校下では、校下の民生委員を中心に昭和五十九年から手作りの弁当を配ってあげたいという願いを現実のものにし、「ふたばボランティアグループ」という給食サービスタググループが誕生し、独り暮らしの高齢者に、月一回弁当が届けられるようになった。

献立をたて、市保健センターの栄養指導うけながらの弁当作り。保健センターのバックアップが何よりの拠り所でした。六十個のお弁当には、

ひとつひとつに志家さんの写真した四季折々の草花の水彩画が添えられ、大変喜ばれたそうです。今、その作品は富山第一銀行清水支店に言葉を添えて

常設されています。

また、ピアノの講師は熱心に勧められる人がいて、始めてから三十数年になります。レッスンは「私ならこう弾きけど、貴方ならどう弾く？」と聞きながら進める。子供達との対話を楽しみなから、ピアノの方へ引つ張っていく。三十分のレッスンをいかに有効に使うか考えています。「生徒は暖かい心を持つてるので、それを引き出してやるのが大切なよ。」

「振り返ると、いつもピアノがあった。色々な人達の協力もあり、ピアノを通じて子供達が自分の方へ振り向いてくれた。生徒がくっついて（慕って）くれた事が嬉しい。素直な心を出してくれる生徒の真心に報いるのは自分の心だけ。結局は心の協力ですね」とおっしゃる志家さん。

「毎日、草花を見つめて書いているとついつい夢中になって、家事が後回しになるんですよ」と笑われる。でも草花を思いやる温かさ、細やかさが絵の中で、志家さんの魅力となつて描かれています。

両の手で 包めぬほどの 花咲かせ
重げにゆらぐ 黄のチューリップ



高岡って甘いの？ しょっぱいの？

今回、たびのひと達は、
伝統を受け継ぐことが生活の一部になっている
“まちの祭り”に目を向けました。



引越してきて始めて見た獅子舞は、私に本当の春を連れてきてくれたんですよ。雪の季節に閉じ込められて、うつうつとしていた心に、笛の音は躍動を、華やかな衣装は暖かさを届けてくれました。



地域によって、獅子舞の衣装は多少違うらしいけれど、主役は男性なのに、女性を思わせる華やかなお揃いの半てんには、驚きました。



そして、圧巻は、御車山ですね。静寂の中に技術と誇りがいっぱい詰まっっていて、体の中に潮が満ちてくるような感動を味わいました。

あれだけの祭りを継承維持していくためには、相当の気力・体力、それにいい意味での頑固さが必要でしょうね。



五月一日、御車山祭り、幼稚園から帰った山町筋のミコチャンは、朝から何だかきげんが悪いのです。

「お兄ちゃん達は紋付に袴をつけ山車に乗れるのに、どうしてミコチャンは山車に乗

れないの？木登りなんかお兄ちゃんより上手なのに。どうしたら乗れるようになるのかしら？」



あらら、ほんとうね。高岡では、小さい頃から長男を全ての中心に据えているような慣習が残っていますよ。御車山にも、獅子舞にも、主役の場に女の子は登場させてもらえないものね。



このことは、高岡だけではなくて日本の伝統そのものにも大阪の女性知事が、相撲の土俵に上がる上がらないで話題になっていましたし…。



六月、金屋には御印祭りがあつたよ。御印祭りの日には、やがえ節が流れて、街並みと合つて良い感じがするね。



やがえ節は、昔から「たたら」を踏む足並みを揃えるのに歌われた作業歌で、それに合わせて昭和初期に男踊り女踊りが振付けられ現在の「やがえふ」になった様です。



現在では金屋の町も核家族化が進み、祭りに住民全員が参加協力し、伝統の保存・継承に努力している様子が伺えます。



これから少子高齢化が更に進み、家族形態も多様化していくとき、「子ども」や「若い男性」「長男・長女」といった、年齢や性別等で主役を限定することなどにこだわりつつけていたのでは、伝統を支えていくのは難しくなっていくのではないかしら。



時代の流れに乗って変化させていくものと、逆流してでも守るべきものを見極める確かな眼力が必要なのかも知れません。

さて、たびのひと、
次回は何に
注目するのかな？

こんにちは

女性行政室です

□「高岡市女性プラン」に変わる

「高岡市男女平等推進プラン」を策定しました。（平成13年3月）

I 男女平等・共同参画を進める社会システム

男女が性別による固定的な役割分担意識にしばられず、いろいろな政策や方針決定の場に対等に参画し、十分に能力を発揮しあひながら活動し、責任も共に担うしくみのあるまちをめざします。

II 仕事と家庭生活・地域活動等との両立

仕事、家庭生活、地域活動等のいろいろな場に、一人ひとりが自分らしく参画し、個性と能力を十分に発揮し、共に責任を担いつつ、仕事と家庭生活や地域活動等を両立しているまちをめざします。

「女と男の心豊かなパートナー都市 高岡」の建設をめざします。

III 男女の人権を擁護するしくみ

家庭、職場、地域などあらゆる場において人権の軽視・侵害や、性別による差別がなく、人権が尊重され、男女が対等にいきいきと豊かに生活しているまちをめざします。

IV 男女共同参画社会形成を促進する基盤の整備

基本目標Ⅰ～Ⅲの施策を推進しつつ、プランを全体として有機的に連携させながら進めていくための基盤をつくります。

男女の平等推進、男女共同参画社会の形成をめざして諸施策、事業を計画的、総合的に進めていきます。

編集後記

知人から京都の生湯葉を頂いた。しかしどう料理して食べるか分からない。早速インターネットで検索し美味しくいただくことができた。これは情報を得るといふひとつの手段である。

男女共同参画社会にしても同じこと。「なんながけ？」と知っているうちは、昨日と変わらない生活が続く。知りたいと思った時、そこにはきっと人として互いに支え合いながら暮らす自分があるはず。

最近、テレビで男女共同参画社会の政府広報がCMで流れている。男女共同参画社会の意識を高める努力がされている。まずは男女共同参画社会とは何ぞやと、多くの人に意識してもらうことが大切である。「ありて」も思いは同じ。さて、貴方も「ありて」にアクセスしてみませんか。

●原田由美子

寄せられたメールから

「ありて」8号を読んでご意見をいただきました。

7通

- すぐくインパクトのある表紙。斬新でいい感じです。（女性）
- セピア色の写真から…
本に親しむ賢い女性を育てることが、廻り道と見えても男女共同参画社会を形成するうえで是非とも必要。（男性）
- 「私らしい働き方」をもう少し突っ込んで考えてみると、労働形態（パートタイマー）でいろいろな問題があると思う。（女性）
- 女性が仕事で能力を発揮することに興味を示した娘に感動した。（母親）
- 「親子であっても上下のタテの関係よりもヨコの接し方をした方がよりよい心のつながりができる。」と教育セミナーで学んだ。でも、このことをぜんぜん解ってくれない夫。（女性）



発行／高岡市企画調整部女性行政室
〒933-8601 高岡市広小路7-50
電話／0766-20-1262 FAX／0766-20-1661
MAIL／gender@office.city.takaoka.toyama.jp